

科目名	グローバルシティズンベーシック I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1	時間数	8コマ	担当者	吉水美穂		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	介護福祉科1年生						
授業概要	この科目では、世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に協力できる人を目指すことを目的とし、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)について学ぶ						
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					麻生塾の求めるコンピテンシーについて理解する。	
		○				日常生活で意識して行動にうつすことができる。	
		○				キャリアビジョンをもち、その目標達成への具体的な行動を述べるができる。	
		○		○		授業で学んだことに対して自分の考えをレポートにまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	2	「協働」の態度を持った学生生活				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	3	よりよい人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	4	マナーの本質 I				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	5	マナーの本質 II				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	6	グローバルシティズンとしての日常				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	7	グローバルシティズンとしての目標				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	8	グローバルシティズンとしての「志」にむけて				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループワークでの参加状況 (3)授業中の態度(居眠り・私語・積極的な発言)以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、R評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート		○		○		50%
	出席状況				○		20%
	演習(グループワーク)		○		○		30%
履修上の注意	レポートは期限を守る。誤字・脱字がないか確認し丁寧な字で記入する。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	からだのしくみ I (前期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度	目標		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について学び、関連した疾患の概要を説明することができる。		
	○				代表的な疾患や症状を知ったうえで、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
	○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○		利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	健康の意義と病気の捉え方、介護福祉士にとっての医学知識について					
	2	脳・神経系のしくみとはたらき①中枢神経系			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	脳・神経系のしくみとはたらき②末梢神経系			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	感覚器系のしくみとはたらき①視覚・嗅覚器			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	感覚器系のしくみとはたらき②聴覚・味覚器・皮膚			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	循環器系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	呼吸器系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	消化器系のしくみとはたらき①消化管			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	消化器系のしくみとはたらき②消化腺			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	泌尿器系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	骨格系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	筋肉系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	生殖器・内分泌系のしくみとはたらき①生殖器			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	生殖器・内分泌系のしくみとはたらき②内分泌系			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	血液・リンパ系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)前期30時間(15コマ)終了時に前期定期試験を実施し、後期30時間(15コマ)終了時の後期定期試験との総合評価を通年の評価とする。 (2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)定期試験(筆記)を前後期に実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、前期定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	こころのしくみ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	大黒剛
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	①こころの面から利用者の状態を見て、その要因の根拠となる知識について学ぶ。 ②こころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動に影響を及ぼすことを学習する。						
授業形式	講義:		演習:		実習:		実技: ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間の欲求について学び、自己実現と尊厳の重要性について理解できる	
	○	○				こころのしくみとしての心理学の基礎を学び、理解できる	
	○	○				人間の成長と発達の基礎的知識を学び、理解できる	
	○	○		○		人間の発達段階と発達課題を学び、人のライフサイクルが概観できる	
○			○		学びの中から自己の振り返りができ、自己理解に結びつきかけとなる		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11 - こころとからだのしくみ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心理学とは－オリエンテーション				教科書『こころとからだのしくみ』『発達と老化の理解』	
	2	こころのしくみを理解する－人間の欲求とは				教科書『こころとからだのしくみ』	
	3	こころのしくみを理解する－自己実現と尊厳				教科書『こころとからだのしくみ』	
	4	こころのしくみを理解する－こころのしくみの基礎①				教科書『こころとからだのしくみ』	
	5	こころのしくみを理解する－こころのしくみの基礎②				教科書『こころとからだのしくみ』	
	6	こころのしくみを理解する－こころのしくみの基礎③				教科書『こころとからだのしくみ』	
	7	*これまでの内容を踏まえ、重点的事項やトピックスを採り上げた講義				教科書『こころとからだのしくみ』	
	8	人間の成長と発達の基礎的知識－成長・発達の考え方				教科書『発達と老化の理解』	
	9	人間の成長と発達の基礎的知識－成長・発達の原則・法則				教科書『発達と老化の理解』	
	10	人間の成長と発達の基礎的知識－成長・発達に影響する要因				教科書『発達と老化の理解』	
	11	人間の発達段階と発達課題－発達理論、発達段階と発達課題				教科書『発達と老化の理解』	
	12	人間の発達段階と発達課題－心理的機能の発達				教科書『発達と老化の理解』	
	13	人間の発達段階と発達課題－社会的機能の発達				教科書『発達と老化の理解』	
	14	*これまでの内容を踏まえ、重点的事項やトピックスを採り上げた講義				教科書『こころとからだのしくみ』『発達と老化の理解』	
15	*本科目のまとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション技術 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期／半期科目	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者の家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護を必要とする人とのコミュニケーションの意味と役割を理解する。	
	○			○		介護現場で利用者およびその家族とのコミュニケーションを深めるための様々な技法を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己開示(1) 自己紹介					
	2	自己開示(2) 自己紹介					
	3	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の方言					
	4	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(1)					
	5	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(2)					
	6	介護におけるコミュニケーションの基本 コミュニケーションとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	コミュニケーション態度に関する基本技術(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	コミュニケーション態度に関する基本技術(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	言語・非言語・準言語コミュニケーション、利用者の感情表現を察する技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	目的別のコミュニケーション技術、利用者の納得と同意を得る技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	相談・助言・指導の技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	利用者の意欲を引き出す技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	利用者と家族の意向を調整する技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	集団におけるコミュニケーション技術、複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	①定期試験(筆記)を実施する。②グループワーク、発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	レクリエーション(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	波多江磨里子		
実施年度	2019年	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	人間が「人間らしく、自分らしく、生きていきたい」と願い、追及をしていくその「援助者」としての役割を持つ介護福祉士。被援助者の「願い」の実現のための保健や体育、レクリエーションの知識を学び、利用者に適切に提供することができるよう評価一計画一実施一再評価の方法や活動分析について知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保健やレクリエーションが特定の人や時間に限定されるのではなく、人権、権利であることを知る。	
		○				利用者によって異なる心や体の課題を理解し、利用者個々人に利用者分析を行うことができる。	
				○		利用者へのアセスメント(評価)をもとに利用者の課題解決に向けた援助行動ができる。	
				○		利用者の方々に対し 集団も個のあつまりであることを理解し、生活の快を追及するための集団援助ができる。	
	○					身の回りにおける保健体育・レクリエーションのための社会資源を10以上挙げるることができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	保健体育・レクリエーション概論・・・レクの主旨、手段、支援の目的				テキスト該当範囲を読んでおく	
	2	楽しさを心の元気づくりの理論・・・楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	3	楽しさを心の元気づくりの理論・・・心の元気と地域のきずな				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	4	レク支援理論・・・コミュニケーションと信頼関係づくりの理論				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	5	レク支援理論・・・良好な集団づくりの理論、(テスト)				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	6	レク支援理論・・・自主的、主体的に楽しむ力を育む理論				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	7	支援のプログラムの理解・・・支援活動実施時のリスクマネジメント、(テスト)				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	8	支援のプログラムの理解・・・福祉分野におけるレクリエーション援助過程				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	9	支援のプログラムの理解・・・長期目標と短期目標の関係、(テスト)				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	10	支援のプログラムの理解・・・プログラムの立案方法				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中のグループワークへの参加状況 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				
	小テスト	◎	◎				
	宿題・レポート	○	○		◎		
	発表・作品			○	◎		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論 I -①						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60	担当者	豆田和也・案納賀世子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	事例・実習を通して、個々になった介護過程の展開ができるようになる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる	
	○	○		○		生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。	
	○	○		○		介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション					
	2	実習 I Bでの情報収集の方法				課題提出	
	3	情報収集の振り返り				課題提出	
	4	情報収集の振り返り				課題提出	
	5	ボランティア実習の準備				課題提出	
	6	ボランティア実習				課題提出	
	7	ボランティア実習				課題提出	
	8	ボランティア実習				課題提出	
	9	ボランティア実習				課題提出	
	10	情報シートのまとめ				課題提出	
	11	アセスメントの視点				課題提出	
	12	アセスメントの視点				課題提出	
	13	フェイスシートの作成				課題提出	
	14	フェイスシートの作成				課題提出	
15	フェイスシートの作成				課題提出		
評価方法	(1)フェイスシート・状況シート・個別援助計画の作成・提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○		○		70%
	授業態度				○		30%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論 I -②						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60	担当者	豆田和也・案納賀世子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	事例・実習を通して、個々になった介護過程の展開ができるようになる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる	
	○	○		○		生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。	
	○	○		○		介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	状況シート作成					
	17	状況シート作成				課題提出	
	18	教科書事例①				課題提出	
	19	教科書事例①				課題提出	
	20	教科書事例①				課題提出	
	21	教科書事例①				課題提出	
	22	教科書事例①				課題提出	
	23	教科書事例①				課題提出	
	24	教科書事例①				課題提出	
	25	教科書事例②				課題提出	
	26	教科書事例②				課題提出	
	27	教科書事例②				課題提出	
	28	教科書事例②				課題提出	
	29	教科書事例②				課題提出	
15	教科書事例②				課題提出		
評価方法	(1)フェイスシート・状況シート・個別援助計画の作成・提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○		○		70%
	授業態度				○		30%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護実習 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	40時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一委員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			利用者の個別性理解のためのコミュニケーション方法について、職員と利用者の関わりを見学し学ぶ	
			○	○		介護福祉専門職としての自覚を学ぶ。	
		○	○			実習記録を適切な方法で毎日記載し確実に提出することができる。	
		○		○		社会人としての基本的マナーが実践できる	
			○		指導者の指導を受け、メンバーと協力して実習を行うことができる。		
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	指導者の利用者との関係性や施設の役割を知る				日々の実習記録の記載	
	3	利用者と自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	介護福祉士の役割について理解する				日々の実習記録の記載	
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出		○	○	○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	介護総合演習 I (前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	通年	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	学生が主体的に、自己の実習の目標や課題を明確にし、介護実習を円滑に行うための知識や技術の習得が できている。実習後は実習の成果を学生間で共有できるようになる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			実技試験に4回目までに合格できる	
				○		すべてに出席できる	
	○	○				実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる	
				○		授業態度	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護実習・総合演習」 介護実習日誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	なぜ実習に行くのか意義・目的					
	2	実習先発表、自己紹介表記入					
	3	調べ学習					
	4	目標設定					
	5	日誌下書き					
	6	日誌清書					
	7	実習内容					
	8	実習の決まりごと確認					
	9	実習前審査リハーサル					
	10	事前挨拶／実習前審査					
	11	事前挨拶／実習前審査					
	12	お礼状／申し送り簿記入					
	13	報告会準備					
	14	実習報告会					
15	実習報告会						
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席している こと 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○				20%
	発表・作品						
	実技試験			◎	◎		80%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価対象外とする						

科目名	介護福祉各論Ⅰ(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	通年	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護福祉を必要とする人の背景を理解し利用者へ何ができるかイメージできる。	
	○	○		○		障害者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		高齢者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		地域の社会資源について説明できる	
○	○		○		介護福祉士の役割についてイメージできる		
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護の基本Ⅱ」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	私たちの生活理解					
	2	介護福祉を必要とする人たちの暮らし					
	3	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし					
	4	介護福祉を必要とする障害者の暮らし					
	5	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点					
	6	「その人らしさ」とは何か。「その人らしさ」の背景					
	7	「生活ニーズ」の理解。個々の生活ニーズにどこまでこたえるか					
	8	生活のしづらさについて考える					
	9	日常生活から考える「生活のしづらさ」				フィールドワーク	
	10	日常生活から考える「生活のしづらさ」					
	11	「生活のしづらさ」に対する支援				まとめ・発表	
	12	「生活のしづらさ」に対する支援				まとめ・発表	
	13	生活を支えるフォーマルサービス(高齢者)					
	14	生活を支えるフォーマルサービス(高齢者)					
15	試験対策						
評価方法	(1)授業中のグループワークへの参加状況 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	グループワーク			○	○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護概論・介護福祉総論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 介護福祉科						
授業概要	介護福祉士の誕生した背景を理解し役割や求められる専門性を理解する。 今後の介護現場で求められる介護福祉士の専門性について知識を深める。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士が誕生するまでの時代背景を理解する。	
	○					介護福祉士の役割と機能を理解し、多職種との連携・協力の重要性を説明できる。	
	○					社会福祉士及び介護福祉士法について理解する。	
	○					介護福祉士養成カリキュラムについて理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 一介護の基本 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 介護福祉士を知る				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護のなりたち—言葉、歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	介護のなりたち—専門職が誕生した背景				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	介護の概念の変遷—1970年代				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	介護の概要の変遷—1980年代				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	介護の概要の変遷—1990年代以降				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	介護福祉の基本理念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	介護福祉士の役割と機能—介護予防				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	介護福祉士の役割と機能—人生の最終段階の支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	社会福祉士及び介護福祉士法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	社会福祉士及び介護福祉士法—諸規定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	介護福祉士の義務規定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	介護福祉士養成カリキュラムの変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	介護福祉士をまとめる団体				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	介護福祉士をまとめる団体—日本介護福祉教育学会				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会の理解(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	伊東良輔		
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士の役割を理解し、他者へ説明することができる 介護保険制度、障害者支援制度の利用手続きとサービスを説明できる。 その他の社会保障制度の概要について説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士として福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション ①科目説明、②生活					
	2	①家族、②地域社会					
	3	①社会と組織、②ライフスタイルの変化(1)					
	4	①ライフスタイルの変化(2)、②生活支援と福祉の体系					
	5	①資本主義と社会保障					
	6	①社会保障制度の発達史					
	7	①社会保障制度のしくみ(1)					
	8	①社会保障制度のしくみ(2)					
	9	①現代社会と社会保障制度					
	10	①介護保険制度創設の背景と目的、動向					
	11	①介護保険制度のしくみ(1)					
	12	①介護保険制度のしくみ(2)					
	13	①介護保険制度のしくみ(3)					
	14	①介護保険制度のしくみ(4)					
	15	①介護保険制度における専門職の役割 前期授業の振り返り					
評価方法	(1)前期30時間(15コマ)終了時に前期定期試験を実施し、後期30時間(15コマ)終了時の後期定期試験との総合評価を通年の評価とする。 (2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)定期試験(筆記)を前後期に実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、前期定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	障害の理解(前期)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田中優子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉士科 1年 ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を理解する	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について理解する	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について理解する	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて理解する	
				○		障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害の概念と障害者福祉の基本概念・・・ICFについて理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	2	障害者福祉の基本理念・・・ノーマライゼーションの思想				教科書の当該範囲を読んでおく	
	3	障害者福祉に関連する制度・・・歴史・サービス・法律の概要				教科書の当該範囲を読んでおく	
	4	障害者福祉と介護保険制度の違いや両制度の併用のしくみについて				教科書の当該範囲を読んでおく	
	5	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること	
	6	障害のある人の心理・・・人間の欲求や適応機制について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	7	肢体不自由の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	8	視覚障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	9	聴覚・言語障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	10	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ①				教科書の当該範囲を読んでおく	
	11	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ②				教科書の当該範囲を読んでおく	
	12	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ③				教科書の当該範囲を読んでおく	
	13	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ④				教科書の当該範囲を読んでおく	
	14	重症心身障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
15	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること		
評価方法	(1)前期30時間(15コマ)終了時に前期定期試験を実施し、後期30時間(15コマ)終了時の後期定期試験との総合評価を通年の評価とする。 (2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)定期試験(筆記)を前後期に実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、前期定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	人間の尊厳と自立											
科目名(英)	human dignity and self-reliance											
単位数	2		時間数	30		担当者	前田浩明					
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年											
授業概要	介護・福祉の現場で働く専門職として、その職業倫理の基盤ともいえる人間の尊厳及び介護場面における利用者の自立支援について、そのことの本質的な意味を理解することによって、介護現場で「実践」として展開できる能力・資質を涵養することを目的として授業を行う。											
授業形式	講義:	○		演習:	○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
		○				介護福祉士が理解すべき人間の多面性を理解する。						
		○				人間の尊厳とは何かについて専門職が大事にしなければならないことを理解する。						
		○				介護福祉士が利用者の自立を支援する意義、求められることを理解する。						
	○					介護現場における権利擁護について制度や予防体制等について理解する。						
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房テキストブック編集委員会 介護福祉士 人間と社会編 吉賀成子監修											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション～尊厳と自立をいかに学ぶか～					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	介護における尊厳と自立について① ～GWIにてイメージを掴む～					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	介護における尊厳と自立について② ～イメージを具体化する～					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	介護における尊厳と自立について③ ～自分の言葉で表現してみよう～「人間」の多面的理解～					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み ～生存権の成立、日本国憲法～					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	尊厳のある介護、自立支援につながる介護とは？ ～介護実習Ⅰを一人ひとり振り返る～					実習記録を事前に読み返しておくこと					
	7	相模原市 津久井やまゆり園の事件から考える障害者の命、人権					当該事件についての情報を把握しておくこと					
	8	高齢者虐待の現状② ～認知症高齢者を守る取り組みとは～					認知症の高齢者が被害者となる事件について整理しておくこと					
	9	子どもの貧困 ～子どもたちの環境にどんな変化が起こっているのか～					子どもの貧困について背景や各地の対策等について理解を深める					
	10	「ホーム」の回復をめざして NHKプロフェッショナル 絆が人を生かすから～ホームレス支援 奥田知志さん～					ホームレスの現状や支援態勢について事前学習する					
	11	ココがズレてる健常者 障害者100人がモノ申す！ NHKバリバラ特番					障害者の人権について事前に調べておく					
	12	あなたは私の手になれますか？～小山内美智子のメッセージ～					障害者の人権について事前に調べておく					
	13	奪われた尊厳① ～元ハンセン病患者の隔離政策から人間の尊厳について学ぶ/DVD視聴～					ハンセン病の歴史について整理しておくこと					
	14	奪われた尊厳② ～元ハンセン病患者 詩人桜井哲夫さんの帰郷(ドキュメンタリー)～					ハンセン病の歴史について整理しておくこと					
15	講義まとめ ～資料整理、感想レポート作成～					配布資料をすべて揃え整理しておくこと						
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
	定期試験		◎				70%					
	授業感想(小レポート)		◎				20%					
	出席状況				◎		10%					
履修上の注意												

科目名	人間関係とコミュニケーション						
科目名(英)	Human Relation and Communication						
単位数	2	時間数	30	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科・ソーシャルワーカー科 1年						
授業概要	介護福祉士の国家資格取得のための要請科目の一つであり、対人援助職の最も基本となる人間関係とコミュニケーションについて基本的なことを学ぶ基礎科目である。この科目は、「コミュニケーション技術」に繋がる基礎科目であるが、コミュニケーションの技法等よりも、人とのコミュニケーションを阻む要因を考え、かつ自分自身の内面を見つめることを重視する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					人間関係の基本となる知識や理論をできるようになる。	
		○				自分たちが置かれた社会や環境を理解し、自分自身の人間関係の形成に役立てられる。	
				○		自分自身のことを振り返り、自己覚知を深める。	
				○		他者と協力したり、コミュニケーションを円滑に図れるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『MINERVA福祉資格テキスト 介護福祉士 人間と社会編』 ミネルバ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	人の好き嫌い 負の感情の扱い方 <グループディスカッション>					
	3	人間関係について考える その1 集団の中での人間関係 <グループディスカッション>					
	4	人間関係について考える その2 人見知りほ損? <グループディスカッション>					
	5	自己覚知 その1 自信カテスト・コンプレックスについて					
	6	自己覚知 その2 コンプレックスについて				次回までに、各自のコンプレックスについてのレポートを提出する。	
	7	自己覚知 その3 家族について考察する					
	8	自己覚知 その3 自分自身の家族について①					
	9	自己覚知 その3 自分自身の家族について②					
	10	自己覚知 その4 自分自身の家族について③				後日、家族についてのレポートを提出する。	
	11	人間関係の形成 その1					
	12	人間関係の形成 その2					
	13	人間関係の形成 その2					
	14	コミュニケーション技法 その3 共感の技法					
15	総まとめ いじめ社会について考える <グループディスカッション>						
評価方法	レポートを2回実施し、2回目を定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	生活支援技術・基本 I (前期①)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	豆田・案納・吉水・平山		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○	○	○	○		各単元の生活支援技術を安全安楽に行うことができる。	
		○	○	○		実施した生活支援技術の根拠を伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ベッドメイキング(豆田)					
	2	ベッドメイキング(豆田)					
	3	ベッドメイキング(豆田)					
	4	着脱(案納)					
	5	着脱(案納)					
	6	着脱(案納)					
	7	着脱(案納)					
	8	移動移乗(豆田)					
	9	移動移乗(豆田)					
	10	移動移乗(豆田)					
	11	移動移乗(豆田)					
	12	移動移乗(豆田)					
	13	移動移乗(豆田)					
	14	移動移乗(豆田)					
	15	移動移乗(豆田)					
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	小テスト		○	○	○		20%
	宿題・レポート	○	○		○		30%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。						

科目名	生活支援技術・基本 I (前期②)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	豆田・案納・吉水・平山		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	移動移乗(豆田)					
	17	移動移乗(豆田)					
	18	移動移乗(豆田)					
	19	移動移乗(豆田)					
	20	排泄(平山)					
	21	排泄(平山)					
	22	排泄(平山)					
	23	排泄(平山)					
	24	演習・p-wc(平山)					
	25	演習・p-wc(平山)					
	26	食事(平山)					
	27	演習・おむつ(平山)					
	28	演習・おむつ(平山)					
29	演習・食事(平山)						
30	演習・食事(平山)						
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	認知症の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		認知症の定義・全体像について理解し説明できる	
	○	○		○		認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる	
	○	○		○		認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる	
	○	○		○		認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる	
○	○		○		認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べるができる		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	認知症とは何か① 認知症の定義と特徴			教科書を事前に読んでおくこと		
	2	認知症とは何か② 症状の全体像			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	3	脳のしくみ① 脳の構造・機能			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	4	脳のしくみ② 認知症における脳の変化			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	5	認知症の症状① 中核症状の理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	6	認知症の症状② 中核症状の理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	7	認知症の症状③ 生活障害の理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	8	認知症の症状④ BPSDの理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	9	認知症の診断と重症度			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	10	認知症の原因疾患 アルツハイマー型認知症と血管性認知症の比較			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	11	認知症の原因疾患 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 治療可能な認知症			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	12	認知症の原因疾患 若年性認知症			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	13	認知症の原因疾患の鑑別			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	14	認知症の治療薬と予防			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
15	認知症の基礎的理解のまとめ			前期まとめテストを実施するので勉強しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	発達と老化の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	15時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。この授業では、介護を必要とする人の理解を深めるため人間の成長と発達の基礎的理解を学び、発達と老化の観点から老化の心理や身体的変化変化、特徴の基礎的な知識を身につけ、人生のあらゆる段階、特に高齢者の生活支援するための知識を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					成長・発達の考え方、原則、影響する要因、発達段階と発達課題の基礎知識を習得できる。	
	○					成長・発達の観点から、老化にともなう心理や身体的機能の変化及び特徴に関する基礎的な知識を習得できる。	
	○					老化にともなう身体的・心理的・社会的変化とそれらがどのように生活に影響を与えるかを理解できる。	
		○					習得した知識であらゆる段階、特に老年期にある人を理解し、尊厳の保持などを踏まえ生活支援ができるようになる。
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 介護福祉士養成講座12 -発達と老化の理解 中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目ガイダンス 自己紹介 医療と福祉の違い 授業の進め方 人間の成長と発達の基礎的知識 成長と発達の考え方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	人間の成長と発達の基礎的知識 成長・発達の原則・法則				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	人間の発達段階と発達課題 発達理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	人間の発達段階と発達課題 発達段階と発達課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	人間の発達段階と発達課題 身体的機能の成長と発達				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	人間の発達段階と発達課題 心理的機能の発達				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	人間の発達段階と発達課題 社会的機能の発達				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	老年期の特徴と発達課題 老年期の定義 老化とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	老年期の特徴と発達課題 老年期発達課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	老年期の特徴と発達課題 老年期をめぐる今日的課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	老化にともなうところからの変化と生活—身体的な変化と生活への影響 生理機能・骨格筋・脳神経系の機能と変化と生活への影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	老化にともなうところからの変化と生活—身体的な変化と生活への影響 感覚器・血液・循環器・呼吸器系の機能の変化と生活への影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	老化にともなうところからの変化と生活—身体的な変化と生活への影響 消化器・腎・泌尿器・生殖器・内分泌・代謝免疫系の機能の変化と生活への影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	前期授業のふり返り				授業時配布プリントの生理をしておくこと	
15	前期定期試験対策 国試過去問				授業時配布プリントの生理をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プリント生理の確認を実施する。(3)グループワーク・発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	プリント確認	○			◎		10%
	宿題・レポート	○	○		○		5%
	発表	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						